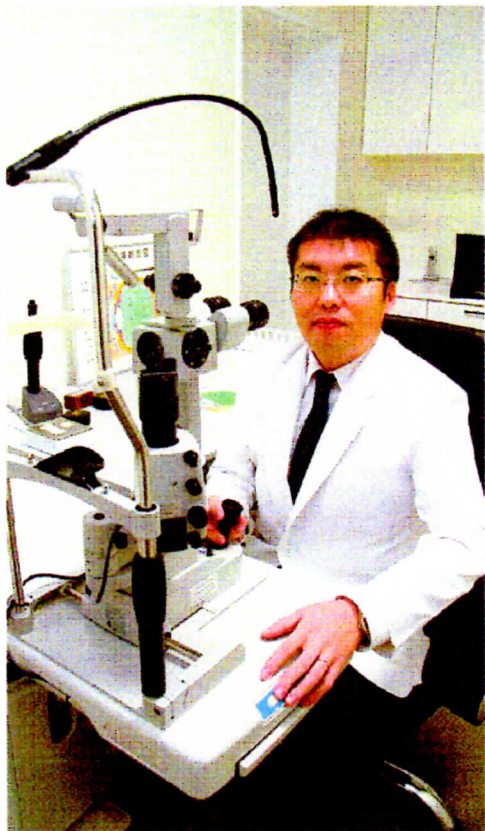


帯広出身で白内障手術などの分野で道内屈指の技術を持つ亀山大希医師（35）が11月1日、帯広市西20南2に「亀山眼科」を開院する。「帯広で開業したいという夢がかない、古里に恩返しができる」と意欲を燃やしている。

亀山大希医師「古里に恩返し」



故郷で開業する亀山医師

亀山医師は帯広開西小、帯広緑園中卒。函館フ・サール高校を経て、旭川医科大学で眼科界の第一人者吉田晃敏教授（現同大学長）に師事。同大病院勤務、北斗病院眼科医長、同大助教などを

を経て、前任は八雲総合病院眼科医長。「子供の頃から、帯広は眼科が少ないという印象を持っていた」と言う亀山医師は、中学生のときにはすでに眼科医を志し、帯広で

最先端の医療を提供する。白内障手術は、眼を切開す

市内に眼科開院へ

白内障手術などに特殊手技

開業することを目標にしてきた。

念願かなった開業に当たり、「見えなくなるくらいなら死んだ方がいい」という人もいるくらい、眼の病気は不安が大きい。眼を治すことは当然だが、自分の家族を診る気持ちで、患者さんの心に寄り添った治療をしていきたい」と抱負を語る。

これまで経験を基に、

幅が国内最小クラスの2.2mmで実施する。術後に乱視になりにくく、治りも早いという。この極小切開手術に対応するため、道内第1号となる最新の手術顕微鏡も導入した。同手術に際して、特殊なレンズを入れることで乱視を矯正する手術にも対応する。亀山医師はこれまで30例近く実施しているが、十勝管内ではほとんど行われていない特殊な手技だという。

高年齢化や食の欧米化に伴って患者が増えている「加齢黄斑変性症」の診断・治療も得意とする。高度な治療のため、大きな病院以外ではあまり行われない「硝子体注射」の実績も豊富で、これに対応する設備も整えた。

高度な治療以外にも、一般的な眼の病気にも広く対応する。「十勝は今も眼科が少ない。眼の病気に気が付いていない人も少なくない

（丹羽恭太）

と想うので、啓発活動などにも力を入れていきたい」としている。
診察時間は午前9時～正午、午後2時～同6時（土曜午後、日曜休診。火曜午後は手術）。26日午前10時～午後2時に内覧会を開く。見学自由。